

# 東北の 高校生の 富士登山

NOBOROU!  
Nippon Ichi no  
FUJISAN he!  
2011-  
TM

# お | 礼 |

2025年7月22日から25日「東北の高校生の富士登山2025」を無事に実施いたしました。

当初は40名程度の参加を想定しておりましたが、実際には倍近い応募があり、急遽バスを2台に増便し、最終的に70名の高校生が参加することになりました。

出発直前に新型コロナウイルスの発症により2名がキャンセルとなり、最終的には68名の高校生が富士登山に挑戦しました。コロナ禍以降においては最大規模での開催となりました。

集合場所では、初対面の同世代同士が顔を合わせ、緊張感が漂う一方で、「富士山に登りたい」という強い思いがひしひしと伝わってまいりました。

予定どおり14時に水ヶ塚公園へ到着し、山岳ガイドや山岳医を含む28名のサポートスタッフと合流。高校生たちは「こんなに多くの大人がサポートしてくれる！」と驚きと安心の表情を見せていました。

22日午後、山頂付近では「雹」や「落雷」の報告がありました。登頂予定日の23日の天気予報を確認したところ、午後早い時間に天候が崩れる可能性があったため、出発を前倒しし、23日0時30分起床、1時出発に変更。夕食後すぐの20時に消灯といたしました。

23日0時30分に起床し、支度を整えて1時に出発。例年より早い行動開始であったため、ヘッドライトを装着して暗闇を進む時間が長く、慣れない環境での登山となりました。登り始めて間もなく体調不良者が出ましたが、医療班のもと登山を継続。9合目付近では複数名に軽度の高山病の症状が見られましたが、移動本部と医療班が連携し、ペースを調整しながら登りました。

そして午前7時40分、全員が富士山頂に到達。登頂が遅れていた女子生徒は、頂上で仲間から迎えられ、感極まり涙を流しておりました。つらかった時に仲間に励まされ続けたこと、その全てがこみ上げてきた瞬間でした。体調不良で遅れていた男子生徒は「ガイドさんに荷物を持っていただき、医療班に体調を管理していただき、大人の皆さんに守っていただいた。本当にありがとうございます」と感謝の言葉を述べ、その言葉に深く感動しました。

下山時には予報どおり雹が降り始め、雷も発生。班ごとに伏せて待機したり、山小屋に一時避難したりと臨機応変な対応を行いました。雷が収まった後に再出発し、さまざまな気象条件を体験しながら下山することとなりました。無事に山小屋へ戻った高校生たちの顔には、達成感と満足感があふれておりました。

この取り組みを実現できたのは、ひとえにご支援くださいました皆さまのお力添えのおかげでございます。心より厚く御礼申し上げます。

「東北の高校生の富士登山」は来年度も継続してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。締めは毎年同じ言葉とさせていただきます。

皆さま「百万遍もありがとうございました」

一般社団法人田部井淳子基金  
東北の高校生の富士登山プロジェクトリーダー  
田部井進也

# 実 施 概 要

名 称	東北の高校生の富士登山 2025 登ろう！日本一の富士山へ
目 的	日本一高い富士山に登り、次なる東北を支える勇気と元気を山から得てもらおう。 青少年育成。東日本大震災復興支援。
主 催	一般社団法人 田部井淳子基金
後 援	文部科学省、環境省東北地方環境事務所、福島県教育委員会、宮城県教育委員会、朝日新聞社、福島民友新聞社、福島民報社
特別協賛	株式会社アルソア慧央グループ、堀 宏、一般財団法人スノーピーク野遊び財団、山井 太、吉永 小百合、株式会社木下グループ、なすび
協 賛	住友生命保険相互会社、一般財団法人クローバー・スマイルズ・アクト、公益財団法人ヨークベニマル文化教育事業財団、一般社団法人まちづくりなみえ、吉田 三菜子、金田 照俊、森 直吉・輝子、山口 美江子、有限会社アンジェリカ、高麗神社、高麗 1300、AUTHENTIC JAPAN 株式会社、株式会社カンセキ、株式会社モンベル、株式会社ヘミングス、郡山テアトル、阪本 順治、久保田 賢次、田部 栄子、寺町 久枝、野田 和代、田部井淳子記念館・募金箱（順不同） ※全国の山や自然を愛する方々の個人寄付にも支えられています（P.45 参照）
助 成	独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」
協 力	公益財団法人 子ども未来支援財団
物 品 協 賛	株式会社フィールド&マウンテン、株式会社マウント、株式会社ご機嫌、味の素株式会社、株式会社虎屋、サントリー食品インターナショナル株式会社、救心製薬株式会社、認定 NPO 法人 富士山世界遺産国民会議（順不同）
運行取扱	アルパインツアーサービス株式会社（観光庁長官登録旅行業 490 号 / 日本旅行業協会正会員）
期 日	2025 年 7 月 22 日（火）～7 月 24 日（木）【2 泊 3 日】
行 程	【7/22（火）】仙台 AM5:30、いわき AM5:30、郡山 AM7:30 に集合 →（専用バス）→ 水ヶ塚公園 → 富士宮五合目 →（徒歩 30 分）→ 六合目「雲海荘」、「宝永山荘」に分宿 【7/23（水）】富士登山 [ 静岡県・富士宮ルート往復 / 行動時間約 11 時間～12 時間（休憩含む） ] 六合目「雲海荘」、「宝永山荘」に連泊 【7/24（木）】六合目 →（徒歩 15 分）→ 富士宮五合目 →（専用バス）→ 富士山本宮浅間大社昇殿参拝、「花の湯」で温泉に入り、昼食後、専用バスにて各出発地へ （荒天などで 2 日目に登れなかった場合は、24 日に富士登山し、下山後、各出発地へ帰る予定でした）
対 象	東北の高校生 68 名
参加費	3,000 円（宿泊代、バス代、ガイド代、山岳用品レンタル代、保険料、入山料などを含む） 希望者に無料でザック、登山靴、雨具上下等のレンタルあり。ヘッドライトも全員に貸与。
募 集	田部井淳子基金ホームページ、インターネット、各学校内掲示等で告知。 募集期間：2025 年 4 月 12 日（土）～6 月 8 日（日）
事前 準備会	参加予定者を対象にオンラインにて事前準備会を開催（全員参加） 2025 年 7 月 5 日（土）17:00～18:30 全体の行程、登山装備等の説明。
運 営	高校生 68 名を 6 班に分け、各班に登山経験豊富なリーダーが同行。医療班も帯同。 関係者が無線で連絡を取り合い、全体を移動本部が把握。
共同研究	筑波大学と共同研究を実施。今年で 7 年目。事前・当日・事後と、参加高校生を対象に複数回のアンケート実施。この富士登山プロジェクトが高校生の心身に与える影響についての研究。（P.44 参照）

■ 福島県 高校2年 女子

私は、中学2年生の時に甲状腺がんという病  
気で母を亡くし、沢山の人が私に支えられな  
がり生じてきた。そのため、日本一の富士山  
登頂に挑戦し自信が持てるように、そしてじ  
っとお世話になる、大方々へ感謝を伝える  
と思い、「東北の高校生の富士登山」に参加し  
た。

今回の経験から学んだことは2つある。

1つ目は、諦めないことの大切さだ。最初  
に富士登山を思い浮かべた時は、とても高く  
長い道のりに不安が大きい。実際に登  
って見ると、じつじつとした岩や歩いたこと  
の無い急斜面にとっても戸惑った。しかし、歩  
みを進めるうちに全身で富士の大自然を感じ、  
見たことの無い景色に触れ、とても感動した。  
決して楽な道のりではないが、天恵だね。最後  
まで諦めず一歩一歩登り、いけば必ずコ  
ールに辿り着けるのだと自分の肌で体感する  
ことができた。

2つ目は、仲間の大切さだ。私にと、それは

全員が初対面で本当にこの人たちと登れるた  
らうかと不安に思っていた。しかし、本気の大人  
たちと、必ず登頂するということと同じ思いを持  
た高校生たちと一歩踏み出した瞬間にそんな  
不安は無くなった。仲間が居たからだと全員  
で誰一人欠けることなく登頂することか  
たと思う。頂上から見た景色は私の一生の財  
産だ。

次に、最もバカ残ったことは、プロジエク  
トの代表である田部井進也さんの「申し込  
んでくれた時点ですばらしいことだ、そ  
れを尊敬したい。」という言葉だ。私は  
その言葉から挑戦すると決め一歩踏み  
出した自分を誇って良いのだと思  
えた。誰よりも私たちが高  
校生のことを考え熱い気持ち  
を持って、田部井進也さん  
を私は尊敬したい。

最後に、今日まで田部井洋子さんの  
思いを受け継ぎ、プロジェクトを  
続けてきてくれたこと、  
本気の大人のみならず  
支援してくださ  
った方々から感謝したい。そして  
この感

コウヨ ケー5 20x20

動を沢山の人が経験してもらいように受け継いでいきたい。

私は、今年の夏「東北の高校生の富士登山2025」に参加してかねてからの目標だ。た富士登山に挑戦した。日本一の山に自分の足で登るといふ経験は想像していた以上に厳しく、そして何よりも達成感に満ちたものだった。

登山前は、「高校生でも登れるだろう」と少し甘く考えていた。しかしいざ五合目から登り始めると、空気が薄く、足も思うように進まなくなってきた。岩場を越え、急な斜面を登るうちに、体力だけでなく精神力も試されているように感じた。特に八合目あたりでは、眠気と疲労で何度も心が折れそうになった。

そんなとき励まし合って支えてくれたのが一緒に登った仲間たちだった。「もう少しだ」「一緒に頑張ろう」と声をかけ合いながら登るうちに、不思議と力が湧いてきた。ひとりだ、たら途中であきらめていたかもしれない。仲間と一緒に、だからこそ、最後まで登

りきる事ができたのだと思う。

そして、ついに山頂に到着したときの感動は、一生忘れられないものとなった。目の前には広がる雲海、澄んだ空、遠くに見える街まるで別の世界に来たような気がした。その景色を眺めていると「ここまで来たんだ」という達成感と喜びで胸がいっぱいになった。

今回の富士登山を通して、努力することの大切さや、仲間の存在のありがたさを改めて実感した。これから先、困難なことに直面することがあっても、この経験を思い出せば乗り越えられる気がする。富士山は、日本一高いだけでなく、私にとって、「心の支え」となる山となった。



## 2025年度「東北の高校生の富士登山」に関する調査研究 -状態 / 特性自尊感情・富士山イメージ・原生自然観-

調査者 渡邊 仁・高橋 達己 (筑波大学)・折居巧朗 (東京女子体育大学)

### 【緒言】

本研究の目的は、富士登山による参加高校生への心理的影響を検討し、その有用性や運用上の課題等を明らかにすることである。  
現在 (2025. 9. 30) 本調査を継続中であるが、一部の結果を報告する。

### 【方法】

[分析対象者] 実施群は、参加者 (68名) のうち全指標でデータが収集できた47名を対象とした。統制群として、参加者の友人である27名を対象とした。

[調査内容] 状態自尊感情尺度 (阿部ら2005、9項目)、ローゼンバーグ自尊感情 (桜井2000、10項目)、富士山に対して抱くイメージ (田中ら2015、8項目)、原生自然観 (折居ら2024、3因子12項目; 尊厳・時間超越・一体感)、自由記述等を収集した。

[調査時期] 状態自尊感情は登山直前と直後に、それ以外は登山約1週間前と1週間後に行った。

### 【結果と考察】

[状態自尊感情] 大きな向上があった (表1)。自由記述からは、想像以上の大変さ乗り越えた達成感や登山を支えてくれたスタッフや仲間についての記述があり、主要な変化要因と推察される。

[特性自尊感情] 変容はみられなかった (表2)。実施群は統制群より元々高い傾向があったが、両群の変化差は統計的には認められなかった。

[富士山イメージ] 荒々しい、日本の象徴である、清潔である、というイメージが強くなった (表2)。実際に登山を行うことで、リアルな状況を知ると同時に、登頂成功による富士山の象徴性が高まったように思われる。

[原生自然観] 変化はみられなかった (表2)。変化には、原生的な自然との接触時間がより多く必要と考えられる。

### 【まとめ】

登山直後に一時的に自尊感情が高まったが、恒常的な自尊感情の変容までは認められなかった。参加者にとって、富士山が荒々しく象徴的であり、思いのほか清潔である認識が高まった。原生自然観の変化はなかった。

### 【文献】

阿部美帆, 今野裕之 (2005) : 状態自尊感情尺度の作成の試み。

パーソナリティ研究14 (1), 125-126.

桜井茂男 (2000) : ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討。

筑波大学発達臨床心理学研究12, 65-71.

田中絵里子, 畠山輝雄 (2015) : 日本人の富士山観の変遷と現代の富士山観。

地学雑誌124 (6), 953-963.

折居巧朗, 渡邊仁 (2024) : 組織キャンプが高校生の原生自然観に及ぼす影響。

筑波大学大学院体育系修士研究論文集46, 341-344.

表1 状態自尊感情のt検定結果 (n=47)

往路バス (登山直前)		復路バス (登山直後)		統計量	
平均	標準偏差	平均	標準偏差	t	d
32.66	8.30	36.19	8.38	-5.26 **	0.77

\*\*p<.01

表2 各指標の分散分析結果 (2要因: 群×時期)

尺度	項目/因子	群	n	登山1週間前		登山1週間後		群		時期		交互作用	
				平均	標準偏差	平均	標準偏差	F	偏 $\eta^2$	F	偏 $\eta^2$	F	偏 $\eta^2$
特性自尊感情		実施群	47	35.17	7.40	37.51	8.00	4.32 *	0.06	5.10 *	0.07	2.69	0.04
		統制群	27	32.56	7.21	32.93	7.55						
富士山イメージ	美しい	実施群	47	4.81	0.40	4.81	0.58	2.50	0.03	2.50	0.03	2.50	0.03
		統制群	27	4.78	0.51	4.52	0.70						
	荒々しい	実施群	47	3.32	1.24	4.02	1.09	2.23	0.03	2.14	0.03	6.32 *	0.08
		統制群	27	3.44	1.09	3.26	1.13						
	雄大である	実施群	47	4.79	0.51	4.81	0.45	2.84 +	0.04	2.30	0.03	3.38 +	0.05
		統制群	27	4.70	0.72	4.48	0.70						
	神聖である	実施群	47	4.00	1.25	4.36	0.97	0.14	0.00	0.61	0.01	3.48 +	0.05
		統制群	27	4.33	0.92	4.19	0.83						
	身近な存在である	実施群	47	1.53	0.58	2.15	1.30	2.75	0.04	4.37 *	0.06	2.70	0.04
		統制群	27	2.11	1.19	2.19	0.92						
	特別な存在である	実施群	47	4.40	1.08	4.53	1.02	2.19	0.03	0.00	0.00	0.84	0.01
		統制群	27	4.19	1.21	4.07	1.11						
日本の象徴である	実施群	47	4.79	0.55	4.85	0.42	7.24 **	0.09	1.94	0.03	4.65 *	0.06	
	統制群	27	4.63	0.74	4.33	0.88							
清潔である	実施群	47	3.04	1.27	3.85	1.02	1.70	0.02	4.12 *	0.05	7.16 **	0.09	
	統制群	27	3.22	1.09	3.11	1.16							
原生自然観	尊厳	実施群	47	16.70	2.96	17.17	3.06	1.74	0.02	0.02	0.00	1.75	0.02
		統制群	27	16.41	3.31	15.81	3.09						
時間超越	実施群	47	13.60	3.35	14.13	3.04	0.04	0.00	0.00	0.00	1.26	0.02	
	統制群	27	13.96	3.68	13.48	3.49							
一体感	実施群	47	13.11	3.27	13.60	3.05	2.86 +	0.04	0.16	0.00	0.76	0.01	
	統制群	27	12.19	4.18	12.00	3.74							

+p<.10, \*p<.05, \*\*p<.01

## 後記

今年には田部井淳子・エベレスト登頂 50 周年のメモリアルイヤーということもあり、当プロジェクトへの注目度も高く、非常に多くの応募をいただき、コロナ禍以降では最大規模の参加人数となる 68 名で日本一の頂を目指すこととなりました。23 日の登頂開始は午後の早い時間から天候が崩れる予報が出ていたため、出発を早めに深夜 1 時に登り始めました。慣れない暗闇での登山で体調不良者も出ましたが、医療班の体調管理とガイドのケアもあり、全員が無事に登頂することができました。下山時は予報通り雷と雷に見舞われました。山小屋へ一時退避するなど、目まぐるしく変わる山の気象を参加高校生たちも体験することとなりました。富士山の登頂率は約 7 割とされています。当プロジェクトの参加高校生たちの登頂率は、今年も 100% です。これも自ら自発的に参加し、同じ目標に向かって行動するからだと考えています。

本冊子に記された高校生の作文から、彼らがこの富士登山で感じ得た何かを共有していただければと存じます。また皆様から託された応援のお気持ちの結果を、報告書の形でお届けすることで、このプロジェクトを分かち合うことができましたら幸いです。

本プロジェクトも 14 回目を迎え、かつて富士登山に参加した高校生たちが、それぞれの分野で活躍するようになり、現在、様々な形で支える側になってきました。長期間続けているプロジェクトの成果も見えはじめ、「富士登山に参加した東北の若者たちが、やがて東北復興の大きな力になるはず」と語った呼びかけ人・田部井淳子の言葉も、徐々に実を結んできております。

これからも東北の高校生の富士登山は続きます。高校生の参加費は、彼らのお小遣いでも参加できる金額に設定しています。それ以上にかかるものについては、個人、団体、企業様等からのご寄付、ご協賛、助成によって運営して参ります。

どうか、引き続き、本プロジェクトを見守り、応援していただけますよう心よりお願い申し上げます。

一般社団法人田部井淳子基金  
東北の高校生の富士登山事務局



## 東北の高校生の富士登山 募金のお願い ～明日の東北をになう若い世代のために～

一般社団法人田部井淳子基金では、東北の高校生の富士登山プロジェクトをこれからも継続的に行なってゆきます。

明日の東北をになう若い世代のために、ぜひ引き続きお力添えください。

ご寄付頂ける場合は、同封の払込取扱票または、下記の郵便口座へお願いします。

[口座記号番号] 00170-9-418320

[加入者名] 東北の高校生の富士登山事務局



\* 郵便局に備え付けの払込取扱票（青い文字のほう）をご利用ください。恐れ入りますが、払込手数料はご負担ください。

\* 富士登山の様子は、専用ホームページ <http://www.junko-tabei.jp/fuji/> などでご報告させていただきます。

東北の高校生の富士登山 2025  
登ろう！日本一の富士山へ



2025.7.22.-7.24  
2025, 7, 22, =7, 24



発行人 一般社団法人 田部井淳子基金  
代表理事 田部井政伸  
〒350-1123  
埼玉県川越市脇本町 6-4-301  
mountain@junko-tabei.jp  
発行 2025年10月20日

〈撮影〉  
渡辺幸雄  
一般社団法人 田部井淳子基金  
〈デザイン〉  
株式会社ご機嫌

田部井淳子基金ホームページ  
<http://www.junko-tabei.jp>



東北の高校生の富士登山ホームページ  
<https://junko-tabei.jp/fuji>

